



入善町立 入善小学校

校長：広田 登

指導教諭：石原 裕美
森岡 美也子

発表児童：6年生(16名)



本校は、明治6年に「入膳小学校」として創校した歴史ある学校です。「豊かな心とたくましい体をもち、自ら考え実践する子どもを育てる」ことを学校教育目標に掲げ358名の児童が学んでいます。

校区は黒部川の右岸で扇状地の中央部に位置し、北は海に面し「じょうべのま」遺跡や海底林があります。かつては伏流水が湧き出て沢をつくっていましたが、基盤整備などですっかり姿を変え、いくつもの企業が豊富な水を頼りに進出しています。



発表テーマ

『扇状地をつくる水 育む水～水と人、生き物、植物とのかかわりから～』

明治時代、洪水で苦しむ人々の生活を守るため、米澤紋三郎氏は石川県からの分県運動に立ち上がりました。それから130年足らずです。現在も黒部川扇状地である入善町には、暴れくるった川の痕跡や扇状地ならではの特徴が見られます。春日地区の河岸段丘、沢スギ林、庄助川などを調査することで、子どもたちは、水の威力、扇状地ならではの水の恵みを知ることができました。

また河川改修に伴う生き物救出活動を通して、生き物と人、水との関わりについて学んだことを発表します。

石原 裕美 先生より

生き物の生命力から自然の尊さを感じた子どもたち

「川にマシジミがいる?」「川底から水が湧き出しているなんて本当か?なぜ?」半信半疑の子どもたち。街中に暮らす子どもにとって、それらは思いもしない不思議なことばかり。黒部川扇状地に生まれ育ちながら、扇状地のよさに気づかない子どもたちに扇状地の特色、よさを伝えたい。広く地域を見渡せば、旧河道であった沢スギ林や河岸段丘、庄助川、海底林など材料はたくさんあった。

子どもたちがそれぞれの課題を追究し終えたころ中俣排水の河川改修工事が始まった。今や貴重な生き物が死んでしまうと子どもたちは懸命に救出した。干上がった川。泥の中のわずかな水分で命をつなぎドジョウはピチピチ跳ね、貝類はしっかり殻を閉じてかくれていた。この光景を目の当たりにして、子どもたちは生き物の命の力強さに感動するとともに環境保全について考えることができた。

<中俣用水>



▲田んぼの中に河岸段丘。黒部川つて暴れていたんだね。



▲たくさんの生き物がいたよ。

つかまえた物を詳しく観察して▼みよう



<沢スギ林>



▲水温14℃
バックテスト3きれいな水でした。



▲沢スギ林の特徴は伏条更新のスギです。

<庄助川>



▲庄助川もこの地区も地下水位が下がっているんだよ。



▲庄助川には、トミヨがいっぱいいるよ。

<中俣排水生き物救出>



▲泥の中にドジョウがいっぱい生きているよ！すごいね！



▲元気で暮らして仲間を増やしてね。

考えたこと！ 感じたこと！



生き物のすめる川の条件

道又 咲稀 (6年生)

現地学習で講師の先生が「つかまえた魚や貝は観察後、つかまえた所に返しませう。」と言われました。最初、その意味が分かりませんでした。しかし、この学習でいくつもの川を調べて、川は川でもいろいろな川があることが分かりました。庄助川は湧水が出るので、水温が低くトミヨが住んでいます。中俣排水は、石積みで自然な川なので隠れる所やエサとなる生き物も多く、たくさんの生き物がいます。だから魚や貝は生きていける条件の合った元の川に返さなければいけないことが分かりました。

川の改修を もっと工夫して！

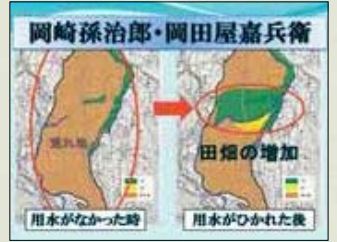
板倉 風雅 (6年生)

ほくがこの学習で強く感じたことは、生き物が住みやすい環境をできるだけ残してあげなければいけないということです。中俣排水は石積みの自然の川で、たくさんの種類の貝、生き物がいました。その生き物たちが、川の改修によってみんないなくなる、死んでしまう様子を見ました。ほくは、すごく残念でした。川底をそのままにしたり石積みの側面にしたりして川の改修を工夫して、魚が生きているようにできたらいいと思いました。

学習テーマの設定

人々を苦しめた暴れ川

ひとたび雨が降れば洪水になり田畑が流され、命を落とすことも…明治時代、暴れ川と呼ばれていた黒部川から人々を守るため、米澤紋三郎さんは富山県を石川県から分県させました。



興味あるテーマを調べる

そこで扇状地をつくった暴れ川について調べました。河岸段丘、自然な川の姿が残る清水川や中俣用水、湧き水の川・庄助川、杉沢の沢スギなど…さらに興味あるテーマを決め調べました。

学習の展開

生き物と川のかかわり

バックテストすると中俣用水や庄助川の水はきれいで生き物や植物も多い。一方、入善用水の水のきれいさは普通ですが、三面コンクリートの側面に少しコケが生え、水草はほとんどない。



生き物が住める川とは？

生き物の住める川に共通するのは、石積みのすき間や水草の陰など、すみかや隠れる所があり、生き物にあったエサがあること。川ならどこでも生きていけるわけではありません。

命を支える沢スギ

国の天然記念物・杉沢の沢スギは黒部川の旧河道です。湧き水の中でスギが育ち、トミヨやシマアメンボがいて、木々が鳥のねぐらにもなり、さまざまな生き物を支えています。



水が1万年守った海底林

海底林は約8千～1万年前に黒部川の洪水で土砂に埋まった木の幹です。普通は海水で腐りますが、北アルプスの雪解け水が海底で湧きだして木の幹を腐らせず1万年も守り続けています。

生き物救出作戦を実行！

入善町の絶滅危惧種などを調べ、生き物救出作戦を行いました。生き物も人も互いにかかわりあって生きていきます。ともに生きる方向を探して、入善の水や生き物、植物を未来に残したい！

